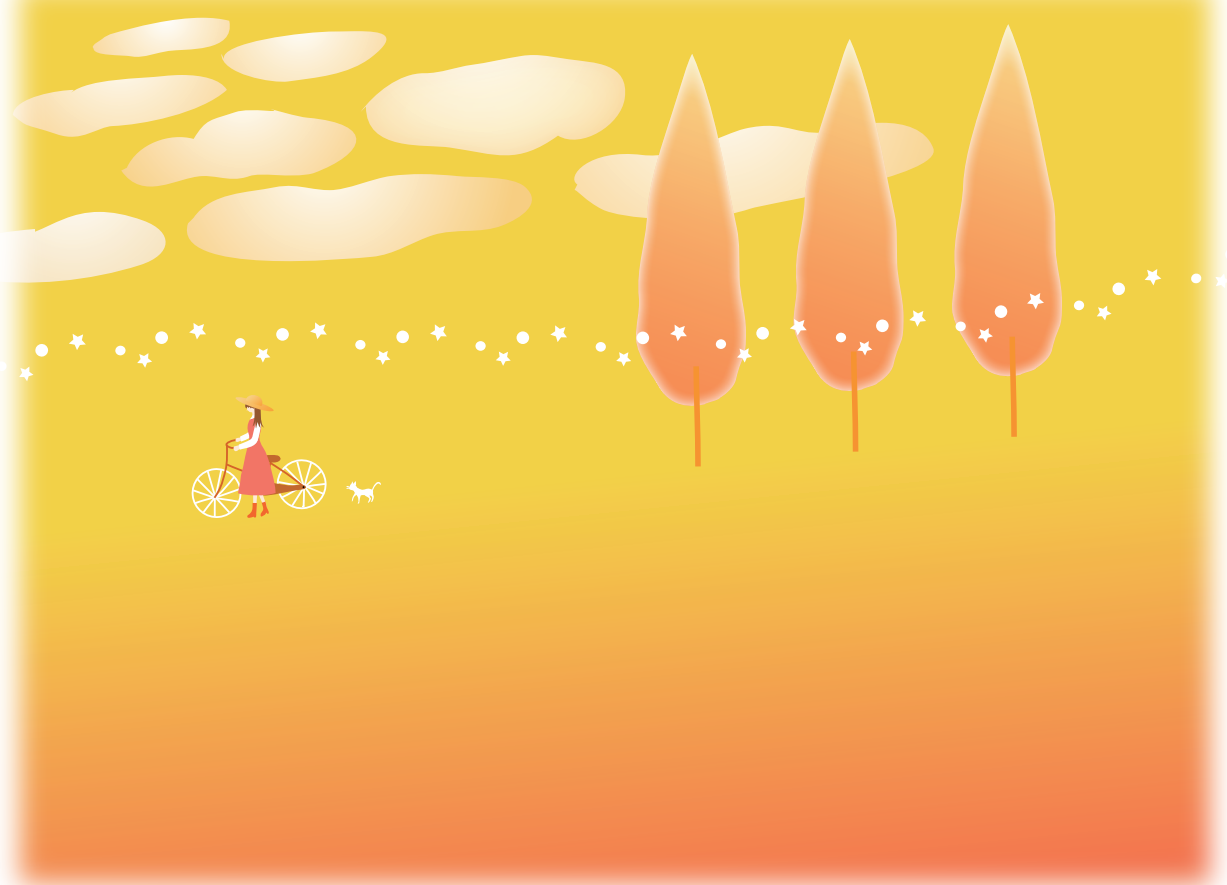


# 126」2の 広場

2023.11



## ミッション

・患者さんに優しく信頼される医療で社会に貢献します。

## ビジョン

- ・神経難病(てんかんを含む)、重症心身障がい、リハビリテーション、結核、高齢者に対して良質な医療を提供します。
- ・医療連携を密にして地域に開かれた医療を目指します。
- ・良き医療人として知識・技術と人間性を養い常に自己研鑽に努めます。
- ・医師、看護師等の人材を確保し健全な経営基盤を構築します。

## 目次

●国立病院総合医学会に参加して	2
●緩和ケア	3
●交流会	4
●秋のつどい	5
●外来担当表／編集後記	6

# 第77回 国立病院総合医学学会に参加して

## 第77回国立病院総合医学学会に参加して

3病棟看護師 菊池 希

広島県で開催された第77回国立病院総合医学学会に参加させていただきました。重症心身障がい児(者)に対するの研究テーマだけでも多くの議題があり、他診療科の議題の内容も含め、自分自身もっと視野を広く看護を行うべきだと実感する学会となりました。発表当日は天候にも恵まれ、会場近くには世界遺産である原爆ドームがあり、一部紅葉がかっており、心身ともに落ち着く時間を過ごすことができました。今回の学会参加で学び、感じたことを今後の看護に活かしていきたいと思います。



## 第77回国立病院総合医学学会に参加して

認知症看護認定看護師 高橋 聡子

先日、広島で開催された国立病院総合医学学会に参加しました。登録演題は約2,000題、参加者は5,000人以上という大規模な学会でした。

私は、医療の質というセクションで、当院の認知症ケアチームの活動の成果について、口演発表をしました。口演後、多職種連携・協働をすすめていくための取り組みについて、座長から質問があり、メンバーとしての認定看護師の役割やチームの具体的な取り組みについて、参加者にお伝えすることができました。この貴重な経験は、今後のチーム活動の大きな糧となりました。

また、他施設の専門職の方々の発表を拝聴し、たくさんの学びを得ることができました。この学びを、今後のチーム活動と日々の看護に活かしていきたいと思います。



# 緩和ケア

2023年10月7日に開催された、第4回日本緩和医療学会東北支部学術大会・第26回東北緩和医療研究会に参加し、活動報告というかたちで当院の取り組みを紹介させていただきました。結果、優秀演題賞を受賞しましたので、一部ではありますが、その内容を紹介させていただきます。



医療安全係長 清水 智美

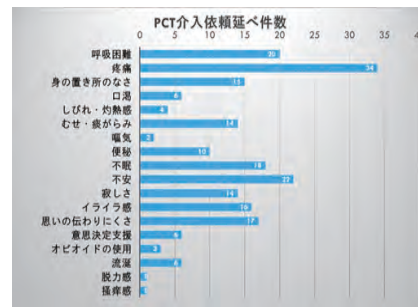
## 目的

緩和ケアは疾患の種類や時期を問わず、全ての患者・家族に対して行われるべきものであるが、わが国では緩和ケアの対象の94%が悪性腫瘍の患者である。神経難病においては、緩和ケアのニーズが高いことが様々な先行研究によって示されているにもかかわらず、神経疾患に対する緩和ケアについての報告は少ない。今回、当院における神経難病領域の緩和ケアチーム活動を報告することで、東北地方における緩和ケアの質の向上の一助としたい。

## 活動の概要

当院では2020年11月より神経難病患者を主な対象として院内緩和ケアチーム(以下、PCT)を発足し、活動を行っている。構成メンバーは神経内科医、看護師、理学・作業・言語療法士、薬剤師および緩和医療専門医である。2023年7月までの依頼患者は延べ55名(ALS 23名、ほか多系統萎縮症、脊髄小脳変性症など)であり、依頼内容は疼痛34件、不安22件、呼吸困難20件、不眠18件、思いの伝わりにくさ17件のほか、身の置き所のなさ、むせ・痰がらみ、流涎、意思決定支援、口渇等であった。

PCT依頼患者・疾患名	依頼件数
筋萎縮性側索硬化症(Amyotrophic lateral sclerosis: ALS)	23
てんかん・脳性麻痺	6
多系統萎縮症・脊髄小脳変性症	5
筋ジストロフィー	3
進行性核上性麻痺	2
視神経脊髄炎	2
パーキンソン病	2
肺結核	2
封入体筋炎	1
その他	9



## 成果

IPOS評価を取り入れたことで、患者の心身の状況をより正確に把握し、ケアの方向性の確認ができるようになり、現在提供しているケアの質の評価が可能となった。また、院内研修会の開催や独自の勉強会を重ね、新たな症状緩和の導入(スコポラミン軟膏、持続皮下注でのモルヒネ、ミダゾラム、筋筋膜性疼痛へのトリガーポイント注射など)などにより、これまで苦慮していた患者の苦痛への対応が可能となった。さらに、SICG (Serious illness conversation guide) を用いた患者家族との話し合いの支援を行うことで、患者の価値観や希望にもとづく意思決定の支援につなげることができた。緩和医療専門医に相談できる体制をとりつつ、院内の多職種スタッフが中心となって運営することで、このような成果を得ることが出来た。



## 考察

神経難病患者と家族のQOLの向上や意思決定の質を高めるために、専門医への相談体制の構築が有効であると考えられる。今後、スタッフへのアンケート調査や指標をもとに症状緩和の改善について明らかにしていくとともに、PCT構成メンバーが主体となり、患者に関わるスタッフの緩和ケアに関する知識・技術の向上を支援していく必要がある。

## 終わりに

非がん患者に対する緩和ケアは、ニーズの高さに反してそれほど広まっていない。将来的には、当院のような非がん患者を対象にした緩和ケアチームの活動が、社会的に評価される、より質の高い緩和ケアが提供できるようになることを目指し、活動を継続していきたい。

# 交流会

山看祭実行委員 阿部 楓華 毛利 麗

9月22日(金)に第8回山看祭を開催致しました。テーマはLife goes on～人生一度きり～とし、参加する人の人生の楽しみの1つになれるような山看祭にしたいという願いを込めました。縁日、健康ブース、映えスポット、フリーマーケット、有志発表など、2学年の自治会役員が中心となり学生で準備、運営しました。今年は久しぶりの一般公開となり、生徒全員が初めての試みの中でしたが、多くの方にご来場いただき、盛り上がりのなか無事に終了することができました。



# 秋のつどい

栄養管理室 調理師長 木村 誉

秋のつどいのスペシャルメニューをご紹介します。

今年の秋のつどいのテーマ「日本一の芋煮フェスティバル」に因んで、昼食にはいも煮が登場します。牛肉のうまみがたっぷり詰まった山形の郷土料理「いも煮」をぜひご賞味下さい。

他には、秋の味覚の代表格「まつたけ」を使った炊き込みご飯に、ほうれん草と菊のくるみ味噌和えをご用意しました。

菊は山形の秋の味覚として古くから郷土の味として親しまれています。その独特の風味と彩りの美しさを感じて下さい。

最後に、デザートには「秋の彩りパフェ」をご用意しました。

マロンとチョコのパバロアに秋の味覚をのせ、今回初めての試みである「アイスクリーム」をトッピングの一部に使用しております。使用しているアイスは室温でも溶けにくいように開発されたものになりますが、冷たい食感を楽しむためには、なるべく早く食べることをお勧めします。冷たさが無くなっても、液状にはならずムースのような食感になる特別なアイスですので、安心してお召し上がりください。

いも煮、まつたけ、菊、栗といった秋の旬を味わって頂けるメニューになっております。皆さん美味しく食べて笑顔いっぱいでした。



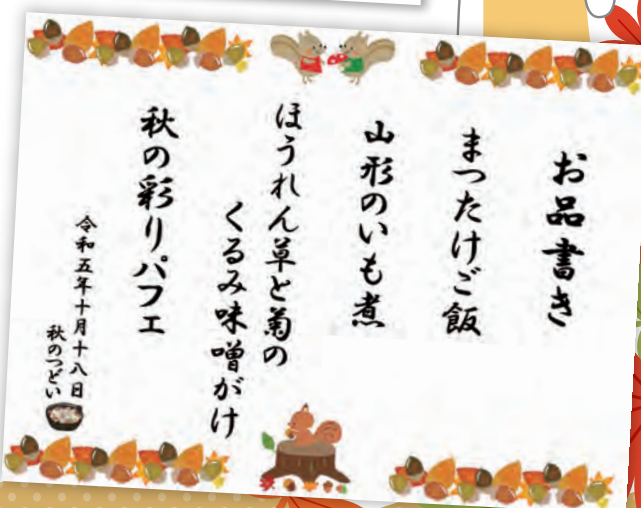
一般食(固形の料理)



移行食(1cm角軟らか料理)



嚥下食(ゼリー状の料理)



国立病院機構 山形病院 外来診療担当表

令和5年10月1日

区 分	月	火	水	木	金	備 考
脳 神 経 内 科 (頭痛・めまい・しびれ)	亀谷紫芙美	川並 透	黒川 克朗	亀谷紫芙美	川並 透	9:00~12:00
	宮林 隆夫	小林 和夫	山川 達志	小山 信吾	小林 和夫	
				加藤 丈夫		
認 知 症 外 来	※	—	—	—	※	12:30~16:00 ※当院脳神経内科医対応
呼 吸 器 内 科	—	布宮 慶子	寺下 京子	—	寺下 京子	9:00~12:00
循 環 器 内 科	八巻 通安	太田 郁郎※	—	—	—	9:00~12:00 ※病棟対応13:00~
小 児 科 (※)	—	石川 明雄 <山形大> 中村 和幸 <山形大>	松木 惇 <山形大> 荻野 大助 <山形大>	目黒 亨 <山形大> 上村 雄太 <山形大>	目黒 亨 <山形大> 石垣 隆介 <山形大>	※病棟対応
精 神 科	—	—	齋藤 裕介 <山形大>	—	—	9:00~12:00
て ん か ん	守川 新人	宇留野勝久	宇留野勝久 守川 新人 (新患)	守川 新人	宇留野勝久	9:00~12:00 (水曜日は新患)
	—	—	—	—	宇留野勝久	14:00~15:00
リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科	—	豊岡 志保	—	豊岡 志保	—	9:00~12:00
脳 神 経 外 科	朽木 秀雄	朽木 秀雄	朽木 秀雄	朽木 秀雄	朽木 秀雄	9:00~12:00
手 話 外 来	朽木 秀雄	朽木 秀雄	朽木 秀雄	朽木 秀雄	朽木 秀雄	(9:00~15:00)
整 形 外 科	<山形大> (第2・第4)	—	—	—	<山形大> (第2・第4)	9:30~12:00
放 射 線 科	—	桐井 一邦 <山形大>	—	—	鹿戸 将史 <山形大>	13:30~16:00
歯 科	—	—	<山形大>	<山形大>	—	水曜日 14:00~16:00 木曜日 13:30~16:00
高 次 脳 機 能 障 が い 科	—	—	—	鈴木 匡子 (隔週) <東北大>	—	9:30~12:30 予約窓口:高次脳機能 障がい者支援センター TEL.023-681-3394
糖 尿 病	—	—	—	<山形大>	—	9:00~12:00
耳 鼻 咽 喉 科	—	—	—	<山形大>	—	15:00~
皮 膚 科(※)	—	—	—	—	荒木 由梨 <山形大>	※病棟対応(第2・第4金曜日)

(学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。)

- ◆初 診 受 付: 平日8:30~11:30
- ◆再診(予約外)受付: 平日8:30~11:30
- ◆休 診 日: 土曜日、日曜日、祝日、  
12月29日~1月3日
- ◆急患は随時受け付けますが、来院前に必ず  
ご連絡ください。  
(☎023-684-5566)
- ◆紹介状をお持ちの方は、外来受付窓口にご提示ください。
- ◆地域医療連携室  
(☎代表023-684-5566/FAX023-681-9477)

編集後記

9月末までのうだるような暑さも忘れるほど、日々寒さがつのるばかりです。スタッドレスタイヤのCMを目にしてはため息をつき、朝晩の血圧の値を目にしてまたため息をつき…。しかし、食欲の秋はもれなくやってきます。今年は山形の芋煮も食べてみたいなあ…。(K・K)



独立行政法人 国立病院機構山形病院

〒990-0876 山形市行才126-2

TEL023-684-5566(代)

FAX023-684-2519(代)

発行責任者 宇留野勝久

編 集 山形病院広報委員会

